

2023年度入試 合格体験記

農学部 農学科

肥山大輝
(一貫コース・附属中学)

「自分の考えを明確に」

私は大学では農作物の品種改良についての研究がしたいと思い、それに関連する研究室のある東京農業大学への進学を目指しました。

農大入試には、面接と小論文の対策が重要になっていきます。まず、小論文の対策についてですが、これは早い段階から学校が実施している小論文対策講座や、小論文模試などを活用して対策を進めてください。対策を始める時期が早ければ早いほど、実際に小論文を書くとなったときに苦勞することが減ります。

次に面接の対策は、先生にお願いして面接練習をしてもらうのが一番の対策になります。何人かの先生にお願いして、何回も練習するのがよいでしょう。これによって、自分が大学で学びたいことや、やりたいこと様々な質問の回答の仕方を考えることができたり、場数を踏んだりすることによって、自分の自信にもつながります。

ここまで、小論文、面接の対策の仕方について書きましたが、一番重要なことは、「なぜ自分は農大のこの学部で勉強したいのか」という考えを明確にすることです。これができないと小論文で書いていることがあやふやになったり、面接で志望理由をうまく言えなくなったりしてしまうかもしれません。逆に、ここがしっかりしていれば、入試の対策でつまずいたとしても、その想いを糧に努力をすることができます。困難な状況であっても自分を信じて諦めないでください。応援しています。

農学部 動物科学科

村山 葉奈
(Ⅱコース・入間東町中学)

「情報は力になる」

私は東京農業大学への進学を見据え、そのために堅実な道である農大三高に入学しました。以下には、私が受験までに取り組んだことを記していきますので、ご一読いただけたら幸いです。

農大に進学するにあたり、私が特に重きを置いたのが事前課題です。事前課題は最終的に大学に送付され、面接にも大きく関わってくるので、農大進学を視野に入れている方は、志望している学科に関する情報をあらかじめ収集し、理解を深めておくことをお勧めします。具体的な例を挙げると、パンフレットの内容、教授の名前や出版している本、研究室等についてです。また、実際にキャンパスに赴き、大学の雰囲気や交通手段を確認しておく、より安心かと思えます。校内選考試験を終えてからは、進路指導室にある、受験報告書に一度目を通していただければと思います。そこには、先輩方のアドバイスや面接で聞かれた内容の詳細がまとめられているので、是非ご活用ください。

学習面については、日々の積み重ねが実を結ぶことに繋がると考えています。私は通学時間や休み時間などの隙間時間を利用して学習に励みました。基礎を徹底し、きちんと土台を築き上げることができれば、正答率も増えて不安も解消されますし、本番でも落ち着いて取り組めることと思えます。

最後になりますが、集めた情報や日々の努力は必ず力になると思います。自分を信じて合格を勝ち取ってください。

2023年度入試 合格体験記

応用生物科学部 食品安全健康学科

中村 權士
(Ⅱコース・宗岡第二中学)

「ゼロより先に」

突然ですが、私は足の速さが平均レベルで、持久力は平均より劣ります。お世辞にも陸上競技に強くない私ですが、私にも、フルマラソンの選手にマラソンで勝つ方法が一つだけあります。それは、フライングをすることです。もしも、私がマラソン選手より10分、20分、極端な話一時間早くスタートできれば私でもマラソン選手に勝てるかもしれません。もちろん、これはスポーツの世界では反則です。ですが、勉強においてはその限りではありません。

「今年度の三学期は来年度のためのゼロ学期だ」と言う言葉をよく耳にします。学校で勉強に励んでいる皆さんも聞いたことのある言葉だと思います。しかし、私もこの言葉を知っていましたが、私の場合はゼロ学期よりも先にスタートしました。なぜなら、ゼロから周りと同じように走り始めたのでは、私より勉強のできる人に勝つことができませんし、もしかしたら、今まで以上に距離を離されてしまったり、周りとのペースの差に翻弄されて自分の力を最大限発揮できるペースを乱したりしてしまうかもしれない、と考えたからです。

皆さんはどうでしょうか、身の回りに自分より勉強ができると思う人や、自分が周りより苦手としている教科・分野はありますか。また、他校の、まだ見ぬ同じ志望校を持つライバルに優っている自信はありますか。もし不安があるなら、ゼロよりも先にフライングしてみてはいかがでしょうか。日々の予習復習の徹底だけでも、フライングで稼いだ距離は皆さんの確かな自信につながると思います。

生命科学部 分子生命化学科

高野 大翔
(Ⅱコース・行田市立西中学)

「農大を目指すなら」

農大を目指すなら定期テストで毎回80点近い点数が取れる勉強法を知っていて、定期テスト1週間前ぐらいのやる気を夏休みから推薦入試まで持続させることができれば合格できると思います。

僕は夏休みの間1日6時間しか勉強をしていないけれど、実力判定試験では良い点数を取り、農大志望の人の中で10位以内に入ることができました。それは、1年生から定期テストごとに勉強をしてきて1回もテストに向けての勉強を怠らなかつたからだと思います。勉強してきたことによって問題の解き方などの知識が身についたということもありますが、自分に合った勉強法を勉強していくなかで見つけられたことの方が大きいと思います。自分に合った勉強法を見つけることができれば定期テストで80点近い点数を取れるようになり、より質の高い勉強ができるようになります。つまり、自分に合った勉強法を見つけることができれば選考試験はきっと通過できます。

小論文と面接は、選考試験よりも対策しやすく、自分の伝えたいことを言葉にすることができれば問題ないと思います。僕は小論文を夏休みの間に8割程度完成させ、面接は選考試験後に対策しました。小論文は、できる限り早く先生に添削してもらうことで余裕を持って完成させることができます。添削してもらうことで、自分では気づくことのできなかつた改善点に気づくことができます。面接は、入退室の仕方を学び、先生に手伝ってもらいながら模擬面接を7回以上やれば本番の時の緊張が和らぎ、予想外の質問が来た時の対処もできるようになると思います。

2023年度入試 合格体験記

地域環境科学部 森林総合科学科

岩倉海
(Ⅲコース・北本市立東中学)

「しっかり準備」

私が東京農業大学合格に向けて行って来たことを記していきます。

私は強化部に所属していたので勉強と部活動を両立しなければなりませんでしたが、そのために切り替えを大切にしていました。学校生活では授業中に絶対に寝ないこと、それから推薦入学には内申点が重要であるため定期テストの期間は勉強により集中して取り組みました。私はこの2つを1年生の時から意識していました。もちろん部活動も一生懸命頑張りました。

2年生の後期から真剣に進路について考えると思いますが、目標は早く決めるべきだと思います。私は大学では今まで触れることのなかった森林について学びたいと考えていました。オープンキャンパスの模擬講義を受講してさらに森林に興味を持ち、この学科への入学を目標にしました。目標が明確に決まると勉強方法が大きく変わりました。私は家だと誘惑に負けてしまうので夜遅い時間まで勉強できる施設で閉館まで勉強し、寝る前に単語を音読して覚えたりしていました。また、朝早く学校へ行って1時間勉強していました。どの勉強方法でも習慣化するまでが非常に大変だと思いますが、頑張りましょう！

選抜試験を突破すると次は事前課題の小論文と面接があります。この2つはとにかく幅広い知識が必要なので、インターネットや本を使って知識を頭に入れました。様々な知識があれば、ある程度小論文は書くことができます。そしてそれは面接でも生かされます。しかし、1人では小論文の完成、面接対策はできませんでした。私は信頼している担任の先生が協力してくれました。多忙の中時間を作って本気で向き合ってくれたので自信ができました。また、やり取りをする中で学科の研究科目に関する知識を自分とは異なる視点から教えてくださるので、新しい考え方も見えてきました。これから課題に取り組むみなさん、本気になってくれる先生を味方につけましょう。

最後に、面接本番に自分が乗る電車を間違えないように気をつけましょう。私は間違えて体が震えました。緊張は必ずしますが、その緊張は今まで自分が一生懸命頑張ってきた証拠でもあります。最後まで気を抜かず大きい声で面接を受けましょう。ガンバレ！

国際食料情報学部アグリビジネス学科

村瑛介
(Ⅱコース・鴻巣市立吹上北中学)

「将来の自分のために」

私は昔から運動をすることが好きで、勉強をするのは好きではありませんでした。そんな勉強嫌いな私が東京農業大学に合格をすることができたのは2つの理由があったからだと思います。

1つ目は、目標があったことです。私は中学3年生のときに食品会社に就職し、マーケティング関係の仕事に携わるという目標ができました。農大三高に入学後は、校内選考試験で評定も関係することを知り、定期テストなどで良い成績をとれるように勉強を頑張りました。目標を達成するためと考えることで勉強のモチベーションの向上に繋がると考えます。

2つ目は、計画的に学習をすることです。定期テスト前や受験勉強のときには必ず計画を立てていました。その日に決まった教科を勉強することで集中することができました。注意することの1つとして、できる範囲で計画を立てることが挙げられます。張り切って無茶な計画を立てても意味がないと思います。私は1日のできる限界のちょっと少なめの量で計画を立てていました。このようにすることで時間に余裕を持つことができ、時間が余った場合は、前日に勉強したことの復習など+αの勉強ができました。計画を立てることで勉強により集中できます。

農大の推薦入試の事前課題や面接の対策としては事前準備を必要以上にすることが大切になると思います。先生や家族に協力してもらい、自分が納得のいくまで取り組んだほうがいいです。応援しています。頑張ってください！

2023年度入試 合格体験記

国際食料情報学部 国際農業開発学科

梶田 蓮
(Ⅱコース・東松山市立南中学)

「小さなことから」

私が今までやってきた勉強法や考えなどをそのまま書き綴っていきたいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

私が勉強する際に大事だと思っていることの一つとして、まずは小さな目標を立ててみることです。私は英語が大の苦手でした。毎回定期テストなどでも、思うような結果が出せず、いざ勉強しようと机に向かってみても、集中力があまり続かずにすぐに投げ出してしまふといったことが多々ありました。そこで私はまず1日最低1ページだけでも参考書などを確認するといった小さな目標を立ててみました。ペース的にはあまり早いものではありませんでしたが、確実に進むことができたので、テスト前の一夜漬けをする際にも、それらの積み重ねが役に立ち、成績の向上にもつなげることができました。

受験に関しての話として、校内選考試験では「Engage」や他教科の教科書などをよく見返し、事前課題では、本やネット媒体で調べたことを自分なりの言葉でまとめることができれば大丈夫だと思います。口頭試問については、まずは受験報告書を確認してみてください。そこには事前課題に関するもののほかに、過去の先輩方が実際に口頭試問で聞かれた質問などが詳細に書かれており、対策をする際に大いに役に立つと思います。また、親や先生方と練習して、備えておくといいと思います。

受験は大変で、苦勞することもあるかもしれませんが、落ち着いて段取りをこなせば大丈夫です。応援しています。